



京都 YWCA

1 2021

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。



京都 YWCA 子どもフェスタ 2020 コロナ禍だからつながろう



新型コロナウイルス感染が拡大したため、京都 YWCA でも4月から従来行っていた親子のプログラムを中止しました。一方で、家に閉じこもり、子ども親もストレスを抱えているといった声もよく耳にしました。そこで、これまでの参加者へ励ましのお便りを出したり、6月以降、感染予防に最大限の配慮をして一部のプログラムを再開するなど、親子で出かけ、発散する場を提供してきました。何度も協議した結果「コロナ禍だからこそ繋がろう」と子どもフェスタの実施を決めました。感染症対策として、事前申し込みによる参加者の把握、プログラムごとの人数制限、検温やマスク着用、飲食ブースの中止、会場の換気・消毒の徹底などを行いました。

笑顔のあふれる子どもフェスタ

11月1日、当日は少し肌寒いものの秋晴れの下、多くの家族連れで賑わいました。我が子とリズム遊びに奮闘するお父さんや、ミニコンサートで思わず踊り出してしまう子どもたちの姿が印象的でした。初の試みの平和プログラムでは、パペットや映像に惹きつけられて参加した小さな子ども、自分の考えた喧嘩しない方法を発表しました。ビッグアートも初企画でしたが、みんなの手形やペイントで大きな木ができあがっていくのは壮観でした。ちょっと退屈そうな小学生も、熱心に布を絞り、玉ねぎの皮の色素で染めた綺麗な色のハンカチを持ち帰っていました。毎年バルーンアートをしてくださる方は、今年はコロナの影響でほとんど出番がないと言わ

れていました。おじいちゃんも一緒に3世代で参加の家族、3兄弟を連れのお母さん、久しぶりの再会を喜ぶ子どもたち、保育園の先生を見つけて緊張がほぐれた園児、近所に住む外国籍の親子、どの顔も一緒に遊ぶ楽しさに時を忘れて輝いているように見えました。

今回は感染予防のため、ボランティアを公募せず、日頃 YWCA で活動している人に応援を頼みました。うららかふえチームが YWCA 伝統のお菓子やお惣菜を作って販売し、45年の歴史を持つスリフトショップの元メンバーが子ども服のリサイクルを担当、あじさい保育園のスタッフや自立援助ホーム・カルーナの退所者、その他多数の人が、ソーシャルディスタンスに配慮しながら手伝っていただきました。混乱や事故もなく、またイベント後に参加者が罹患することもなく、子どもフェスタを開催することができました。

「孤育て」を防ぐ ふれあいコミュニティをめざして

コロナ禍での子育ては人との接触が制限され、孤立する親子が増加していると言われています。保育園に通う子どもや親たちも、普段以上のストレスがかかりがちです。京都 YWCA でのひと時が息抜きになり、新たな出会いや交流が生まれるよう、今後も様々なプログラムを提供していければと思います。また、そのことが YWCA で活動する人のエンパワーにつながると感じられた子どもフェスタでした。

(平野富希)



ミニコンサート、じっとしていられない!



バルーンアートもたのしみました



ビッグアート、どんな木ができるかな

京都 YMCA / YWCA 合同祈祷集週集会 愛とコロナとレジリエント

「レジリエンス」とは困難な状況にもかかわらず「しなやかに適応して生き延びる力」のことです。オンラインで参加した30名と分かち合った日本キリスト教団川和教会牧師の平良愛花さんのメッセージを紹介します。



仲良くならなくてもいい

学生時代に友人から「あんたなんか嫌いよ。でも愛しているから」と言われ、愛とは好き嫌いでなく、それを越えた別の意味があるんだと気づかされた。私を大切な存在だと認めてくれた友人に感謝している。

仲良くなるゲームを考えていた時に「仲良くならなくてもいい」と言われて驚いた。仲良くなるよりもっと大切なことがあるんだということに気づかされた。それは「仲良くならなくても一緒に生きている大切な仲間である」ということだった。

排除から連帯へ

コロナの感染者が増えてくると誰かを槍玉にあげるよう

な報道が多くなったが、ウイルスは人を差別せず感染し、すべての人を当事者にした。コロナ禍を乗り越えようと「排除から連帯へ」とゆっくりではあるがシフトしている動きもある。ウイルスはすべての人をつなぐものとなるかもしれない。愛とは、共に苦しみながらも忍耐強く、打ち勝つ力を探し、向こう側にあるものに対して想像力をもつことではないか。

自分を愛せよ

自分を愛するように隣人を愛せよというが、まずは自分を愛することから始めよう。友が自分を見捨てても、神という絶対者が愛してくれている、味方でいてくださる。そう信じるのが力強くさせてくれる。

オリジナル曲「♪仲良くならなくてもいい」の平良さんの素敵な歌声はオンラインでの参加者をつないでくれました。「あー仲良くしないでいいんだ」と肩の力が抜けたという声も聞かれました。最初に男性同性愛者であることを話された平良さんからは、コロナ禍の今だからこそ、しなやかさを持ちながら、よりよいこれからを創りだしていきたい！と感じさせてもらえる時間になりました。(松田千治)

京都 YWCA ユースの動き

京都 YWCA では 2020 年度春からユースメンバーが活発に活動しています。今回は 3 人のメンバーがオンライン (Zoom) で行っている活動を紹介いたします。エンパワーされると同時に、ユースにとってのセーフスペースとなりつつあります。

1. 中高生向けワークショップ (2020年7月～12月)

京都 YWCA ユースエンパワメントチームでは、世界 YWCA が発行している『Rise Up! ガイド』を基に様々なテーマで中高生向けのワークショップを行っています。平安女学院中・高等学校、同志社女子中・高等学校の学生とともに、社会課題に気づく力、自分の考えや自分自身を知る力、自分の考えを仲間と分かち合う力を養うことを目的にワークショップを進めています。今の中高生と意見交換することで、ワークショップを運営している私たちもたくさんの気づきや学びを得ることができ、相互にエンパワメントされているなど毎回実感しています。(森麻貴)

2. 台北合同 Rise Up (2020年10月～)

10月から始まった台北 YWCA との合同 RiseUp。台湾と日本のジェンダーに関する問題について、ユース同士で共有する場として始まりました。1ヶ月に一度のオンラインプログラムで集まり、半年後に台日ユース主催のイベントを行う

ことを目標としています。交流の際には、台湾では学生やアルバイトも「生理休暇」が取れるという事実が驚嘆の悲鳴が上がる場面も。言語の壁を超えて笑い合いながらお互いの国の問題を考える刺激的な時間となっています。(片岡英子)

3. 夜かふえ (毎月1回)

「夜かふえ」は休日の夜にオンライン上にて集まるユースのセーフスペースになっています。回ごとに決まったテーマについて楽しくおしゃべりをしながら、新しい知識と出会う場になっています。これまでには「女性を取り巻く環境」や「戦争と平和」などのテーマに対し自分の考えを共有し、みんなで語り合いました。自分の考えを人に話し、また、相手の考えを知ることを通して新たな視点に気付いていくことができる活動になっています！(田辺梨緒)



ベルギーからの便り③

コロナ禍で増える家庭内暴力に立ち向かう女性たち

ベルギーにお住いの京都 YWCA 会員の上羽郁子さんが見たヨーロッパ事情をシリーズで報告していただいています。

10月末、私の暮らす隣の区で、一人の女性、サルワさんが元夫に殺される事件がありました。彼女はすでに警察に脅迫被害を届け、その後も数回、警察に足を運び恐怖を訴えていました。警察は十分な証拠がないとして彼女にとりあいませんでした。元夫はサルワさんの叔母に「必ず彼女を見つけ殺しに来る」と恐喝していたそうです。届けを出して10日後、彼女の命は奪われました。

彼女が殺された翌々に警察署前で彼女への追悼がありました。サルワさんの知り合いでもあり区会議員でもあるヨケさんは、「多くの女性の訴えを真剣に聞き取ってもらえない状況は、女性として議員として許せません。あと何人の女性が死ねばこの状況が変わるのですか？」と、隠しようのない無念さと怒りをもって、力強いメッセージを届けました。

コロナ禍で外出や人との接触が少なくなり、ストレスを抱える人たちが増えるとともに、女性と子どもに対する家庭内暴力も増加しています。フランダース地方ではフランスなどと同じく、コロナ禍でも常に開業している薬局に、合言葉「マスク19」を注文することによって家庭内暴力を知らせ女性たちが救済を求めることができるようにする対策も開始されました。けれども、どこまでこのことを知る

人がいるのかは分かりません。また、無料電話相談のサービスもありますが、議会では野党が、このサービスの存在を広め、誰もが困ったときにすぐに利用できるよう政府は配慮すべきだと訴えています。

11月22日には「女性に対する暴力撤廃の国際デー（11月25日）」にちなんで各地で集会が開催されました。コロナ禍では建物内での集会やデモ行進も禁止されていますが、距離をあけての外での集まりは可能です。この日は女性への暴力反対、女性の尊厳を求めて人びとは外に出ました。もちろん、議会で訴えることや話し合いも必要ですが、通りに出て私たち市民がメッセージを届けることが社会を変える鍵だと私は信じています。（上羽郁子）



女性に対する暴力反対を訴える集会参加者たち
(11月22日)

シリーズ「あじさい保育園だより」④

あじさい保育園はじめての礼拝「収穫を喜ぶ会」

11月5日「畑におやさい 田におこめ 木にはくだもの 実る秋・・・天の神さま ありがとう」と収穫を祝う会が行われました。保育園のホールでは子どもたちの明るい讃美歌の歌声が響きわたり、あじさい保育園で初めての礼拝を室町教会の浅野献一牧師を招いて行いました。

本来の讃美歌の歌詞は一番で終わるはずですが、子どもたちは2番までのオリジナル歌詞を作り「・・・マジカルさんがまもってくれた」と歌い締めくくってくれました。

5月ごろからみんな組（3-5歳児）を中心に保育園屋上の小さな菜園で野菜を作り始めました。きゅうりの栽培に始まり、さつまいもの植え付けへと進められました。夏にはあお組（2歳児）の子どもたちも水やり作業に加わり、強風で倒れた苗には支柱を立て、雑草が伸びれば草刈り、カラスに荒らされた日にはネット掛けと苗の育ちを助け見守りました。

山々を見晴らせる屋上の菜園と芝生のオアシスは様々な豊かな経験を子どもたちに与えてくれたようです。

想像できないほどの多くの虫やバッタを発見した時の感動と驚き、強風で倒された苗を見つけた時の落胆と悲しみ、カラスに荒らされた時の怒り、大きなきゅうりやさつまいもが収穫された時の喜び、折々の出来事についてクラスで

話し合いがもたれたようです。カラス避けにと製作された子どもの等身大の「マジカルさん」が見張り番として菜園に立てられた時はとても微笑ましく、子どもたちの野菜へのいつくしみの心を嬉しく感じました。

「収穫を喜ぶ会」は野菜の育ちと収穫を感謝するだけではなく、野菜の育ちを通して子どもたちの感性が豊かに育まれたことを喜び感謝する日だということを感じました。子どもたちの益々の健やかな心と身体の成長を祈るひと時でした。

浅野牧師には礼拝前より、みんな組と共に芋掘りに、野菜を切る作業にと過ごしていただき、また豚汁でテーブルを囲む楽しい時間をもっていただけたことは本当に嬉しい感謝の日でした。



12月18日には「世界で初めてのクリスマス」と題してあじさい保育園での初めてのクリスマス礼拝が行なわれ、そして12月21日の乳児のクリスマス会へと続きました。（河合由美子）

秋のプチスリフトセールを実施しました！

10月17日に「秋のプチスリフトセール」を実施しました。コロナウイルス感染防止のため、セールの時間帯を3つに区切り（各45分間）、各時間25人の事前予約制とし、入口での検温等の対策を講じて行いました。来場者数は延べ46名でした。商品は、事前に会員等の関係者に寄贈を募り、リユースの衣類や装飾品・食料品を販売したほか、2つのお店の協力を得てブースを出店していただきました。約1年ぶりのセールで、待っていたという方も多くおられました。



冬の感染拡大状況を鑑みしばらくは今回のようなセールをお休みし、常設販売を中心に実施していけたらと考えています。

(御前麻里)

ご協力ありがとうございました

2020年10月1日から2020年11月30日 寄付者一覧(敬称略,順不同)

一般寄付

江川みゆき、西森頼子、日本キリスト教団室町教会

***ファンドレイジング委員会**

エルファ共同作業所、宮川信子、弘中奈都子、森本ぶどう園

各指定寄付

***未来応援募金**

・緊急支援
出店都、花岡正義、有田孝子

***うららかふえ**

宮武美知子、御前明美、京都わかかさねと

・保育園備品

安藤いづみ
***多文化共生委員会**
花岡正義、御前明美、一色光世、田中順子、神門佐千子、富田京子、浅野猷一、森ののこ、大手理絵、富田京子

***自立援助ホーム「カルーナ」**

永井潤子、定本ゆきこ、安藤いづみ、内田匡子、村上浩子、日本聖公会京都教区婦人会、京都わかかさねと

***保育園（物品寄付）**

近藤製作所

***賛助費**

出店都、伊藤真代

***APT**

手島千景、上原従正、飯田奈美子、安藤いづみ、御前明美、田中順子

「京都YWCA 未来応援募金」へのご協力のお願い

新型コロナウイルス流行により、京都YWCAが日頃地道に取り組んできた事業が大きく影響を受けています。これを克服して事業を進めていくための「緊急支援募金」を含め、3つの未来応援募金を実施しています。皆さまからのご支援をお願い申し上げます。



- ◎未来応援募金——緊急支援募金（目標150万円）
新型コロナウイルスの影響を乗り越えていくために。
 - ◎未来応援募金——保育園備品募金（目標120万円）
園児の健やかな成長に依るための備品購入に。
 - ◎未来応援募金——ユース育成募金（目標80万円）
国内外のプログラムへの若者の参加支援などによる次世代育成。
- 郵便振替 01080-9-1566
加入者名 公益財団法人京都YWCA
*通信欄に未来応援募金の中の指定する募金名をご記入ください。
京都YWCAへのご寄付の詳細は事務所に問い合わせさせていただき、ホームページをご覧ください。
<http://kyoto.ywca.or.jp/support>

遺贈のご案内

生前にご遺産の一部を寄付されることをお約束いただく制度です。女性と子どものエンパワメントをめざす京都YWCAの事業への賛同のご意志が、未来にひきつがれます。

有田税理士事務所

税金のことでお困りの時は
ご相談ください



京都市上京区武者小路通烏丸西入梅屋町468

URL <http://www.arifax.jp>

arifax 検索

で一発です！

☎ 075-451-5178

11・12月/理事会報告

- 高齢者住宅サラームの秋の交流会御所散策を実施。災害時避難場所の御所まで経路も確認（10/24）。
- 保育園見学会をオンラインで実施（11/14）。園舎内や保育の様子などを紹介。
- 自立援助ホーム「カルーナ」委員会が若者の間で流行っているアプリについて支援者が知る学習会実施（12/3）。講師は立命館大学産業社会学部教授齋藤真緒さんとゼミ生の皆さん。
- 保育園の保護者および地域の子育て中の人を対象に「子育ておはなしかい」を実施（12/12）。お話は臨床発達心理士の室紀子さん。

- 定例化の予定。
- クリスマス集会（オンライン）を実施（12/19）。礼拝は元近江兄弟社小学校教諭鳥井新平さん。
- 居場所食堂うららかふえでは、事前予約された方を対象にランチ提供を実施している。
- 京都YWCA あじさい保育園の2021年度に向けた新職員の募集、採用を進めている。
- 京都YWCA 設立100周年（2023）の記念ロゴを製作。

KYOTO YWCA No.560 2021年1月号（1月1日発行）

発行人：上村 兪巳子
発行所：公益財団法人京都YWCA
〒602-8019
京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075)431-0351
FAX：(075)431-0352
e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp
HP：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566
口座名義：(公財)京都YWCA
定価：1部50円
発行：奇数月1日発行